



教育学部の近況

教員養成のさらなる高みを目指して

教育学部長 戸塚 学

大学では、長期間に及んだ学内の施設整備が本部事務局棟の改修工事をもって完了し、正門から教育学部を臨む景観が様変わりしております。教育学部正門玄関には、皆様から寄贈していただいた掛時計が、学生たちとともに時を刻んでおります。同窓会の皆様には、日頃より温かいご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。

昨年の「あすなろ第37号」で教育学部改革についてご報告しましたように、本年度、教育学部は一七六名の新入生を迎え新たなスタートを切りました。教育学部の歴史を紐解くと、学生定員一学年三六〇名という時期がしばらくみられ、その後二四〇名を経て現在に至っております。今回の学部改革は、少子化による教員需要を踏まえた量的縮小への対応でありますが、その一方で質的な変化として、初等中等教育を担う教員の質の向上のための組織編成やカリキュラム改革等の機能強化を行っております。

さて、学部の新たなスタートに



大学正門から教育学部を望む

続き、来年度は、教員養成のさらなる高みを目指し、教職大学院が産声を上げることになりました。正式名称は、教育学研究科教育実践専攻（学生定員16名）です。ここでは、理論と実践との往還・融合を通じた省察をもとに、青森県が直面する教育課題の解決をめざした教育実践を創造し、リードしていく教員を養成します。教職実践専攻には、現職教員を対象とし、校内研修・地域連携、教育開発などの課題に中心となって取り組む「ミドルリーダー養成コース」と、主に

学部卒学生を対象とし、確かな実践力・省察力を持つ若手教員を養成する「教育実践開発コース」が設定されています。

教育実践専攻は、学校教育に關連する様々な領域や教科の研究を行う既存の学校教育専攻（修士課程）とは異なり、次の特長があります。①学校現場における教育実践能力の向上を第一にし、理論と実践との往還・融合を担保するカリキュラム体系を整備しています。②現場での「実習科目」や、それを省察する「教育実践研究科目」が修了要件の1/3を占めます。③修



地域と共に

同窓会長 相馬 正 栄
(昭和40年卒)

我が弘前大学は、戦後の混乱期の昭和24年5月31日に教育、文理、医学の三学部をもって新制大学として発足した。当時の学生たちの多くは、物質的には乏しく貧乏で飢えていたが、子どもたちを育て新しい日本を創るという気構えで勉強したと、先輩たちから聞いたものだ。

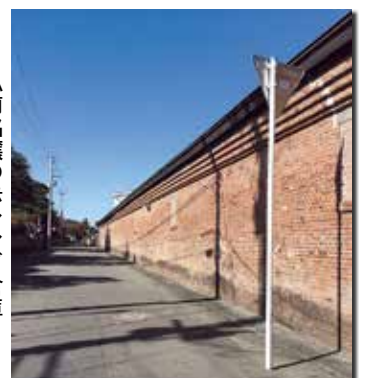
私は、その昭和24年に小学校へ入学したが、当時の先生たちは師範学校や旧制高等学校出身が多く、教育学部出身者はいなかったように記憶している。その指導の仕方は、すべてに厳格で理解するまで徹底して教え込むというもので、少しでも怠けたり悪さすると容赦なく、黒板消しやチョークは飛ん

士論文の提出はなく、教育実践報告書を作成します。「学位・教職修士（専門職）」④入学定員と同じ数の専任教員16名が指導にあたり、その内七名は学校現場での管理職経験ならびに教育行政経験がある実務家教員を配置しています。

本学では、この教職大学院を礎に青森県教育委員会との連携を深め、教員の教職生活全般における職能成長の実現に寄与していく所存であります。同窓会の皆様におかれましては、変わらぬご理解とご協力をお願い致します。

ではくるし、廊下に立たされたり時にはゲンコツも頂戴した。体罰は禁止とはかけ離れた時代でした。六年生になり初めて教育学部出身の若い男子の先生が担任になった。その先生はグループでいろいろなことを調べ発表し合ったりと自由な雰囲気があった。当時としては画期的で楽しい授業でした。また放課後には野球やスキーまでも指導してくれました。このときに、私は誰にでも分け隔てなく平等に接してくれた先生の姿に憧れ、教師を目指すことになる。

私は昭和40年、ある漁村の中学校に新米教師として赴任した。その子どもたちは一人前の働き手として、早朝からのコンブ採りや



弘前銘産の赤レンガ倉庫

深夜のイカ漁などに出漁するものの疲れ果て、そのまま欠席してしまう地域でした。そのような環境でも子どもたちは純真で素直でした。当時の先生方は、この子どもたちのため何とかしてやりたいと思い、「学校は子どもにとつてとても大切で楽しい場所である」ことを、地域人たちに訴えたり家庭訪問を何度も何度も続けた結果、子どもたちを学校へ出校させてくれるようになったのです。それには五年もかかりましたが、学校は地域から絶大な信頼を得ることになったのでした。この貴重な経験は、その後の生徒指導に大いに役立った。

その後38年間教師生活が続け現在に至っているが、ここ数年の間に学校を取り巻く環境は大きく変わった。その原因のひとつに少子化があるが、だんだんと少なくなっていく子どもたちを、いかにして有能な人材に育てるかが重要になってくるのです。こんな時こそ、学校は生徒の情報をいろいろ持っている地域との連携を大切にしたいものと考えている。



退職に際して思いつくまま

幼児教育 教授 菅野 幸宏

私が弘前大学教育学部に赴任することになったのは34歳のときです。手続きに従い、健康診断を受けることになりましたが、冬の津軽は初めてです。随分怖い目に会ったことを覚えています。事の発端は、旅行気分丸出しで、よく考えもせず、山道ルートを選んでしまったことです。現地に行つて見ると、峠の積雪は半端でなく、轍はうねりにうねっていました。高速に乗った帰り道もあわやホワイトアウトかという状況です。結局随分時間をかけて帰宅しましたが、笑えない一日でした。あれから32年。定年はいよいよやってききました。

弘前大学では幼稚園教員養成課程の仕事が待っていました。スタッフは「幼児教育学」の野口教授、「保育内容の研究」の山本教授、それに「幼児心理学」の助教（菅野）を加えた3名で、学生定員は30名でした。この時期は低学年に強い小学校教員を多く輩出したと言えるでしょう。

長い間には大きな事件や病気にも見舞われます。記憶に新しい所では東日本大震災です。命を失った親戚こそいかなかったものの宮城の実家は大津波を被り、骨組みだけを残して海の藻くずと消えてしまいました。暫くは仮設暮らしとなりましたから、これは父親の寿

命を縮めたかも知れません。

個人的には、パーキンソン症候群の発症が大きな出来事です。この病気は、モハメド・アリも発症していますが、近年の映像では、「蝶のように舞い、蜂のように刺す」往年の勇姿はすっかり陰を潜め、別人のようでした。この病が奪うものは「若さ」なのでしよう。退職してもできるだけ若々しく保ちたいものです。

花見、リンゴ、ねぶた。それと岩木山。雪だつてすばらしいアクセントです。津軽暮らしは快適の一言でした。これからも住み続けたいものです。これまでのおつきあい、誠に有り難うございました。また、数々のご支援感謝に堪えません。皆様の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



津軽富士と弘前城天守（曳屋後）



リニューアルなった「事務局庁舎」（大学本部）



泊一心

六ヶ所村立泊小学校 校長 高山 久光
(昭和59年卒)

はじめに

泊小学校は二回目の赴任である。平成元年度から五年度までお世話になっている。その時担任した子どもたちが保護者になっており、PTA活動などをはじめ、頼りがいのある存在となつている。その頃は児童数も三百五十名を超えていたが、現在は百三十三名。しかしパワフルで元気あふれる子どもたちの姿は変わらない。

学校紹介

世帯数約千三百戸、人口約三千人の六ヶ所村最大の集落である泊地区。その泊にたつた一つのかけがえのない小学校。地域の住民はもとより、故郷を離れて暮らす泊

出身者の心よりどころとしても存在する泊小学校。保護者、地域、保育所、中学校と心を一つにして（泊一心）、地域の宝である子どもたちの成長に尽力していきたい。地区最大の産業は、いか、鮭を中心とした水産業であるが、保護者の多くは村中心部の原燃関係の会社等に勤務している方が多い。また、一番近い高校である六ヶ所高校まで三十キロメートル。野辺地高校やむつ市内の高校まで車で約一時間と通学時間がとてもかかる地域でもある。子どもたちの将来設計のためにも、学力の一層の向上、望ましい生活習慣の定着に努めなければならない。

学校経営にあたって

課題も何点か見えてきた。「学力向上」「健康意識（肥満度の高さ）」「地域との連携」「校種間連携」などなど改善していかなければならないもの、より一層絆を深めていかなければならないものがある。

職員はともかく、真面目である。教諭では新採用二校目というパターンが多い。研究熱心で、努力を惜しまない人材が多い。彼らのやる気をうまく引き出していくこと、またそんな彼らによいアドバイスができるよう私も学んでいかなければならない。

当村は教育予算をとっても多く配分してくれている。昨年度はタブレットPCも導入された。ICT教育について学んでいくには、すばらしい環境である。

子どもたちが「学校に来るのが楽しい」と思えるよう、また保護者や地域の方から信頼される学校経営に努めていきたいと思う。





信じ続ける

青森市立佃中学校

教諭

平川 有希

(平成28年卒)

私はこの春から、青森市の中学校で一年生の学級担任を務めています。中学生の頃からの夢が叶い、晴れて先生になることができただけですが、四月は不安しかありませんでした。不安なまま、あれよあれよという間に入学式、黄金の三日間、授業開き：自分も生徒も一年生で、何が何だか分からないうちに、嵐のような日々が過ぎていきました。今は学校生活にも慣れ：と言いたいところですが、

今でも毎日が刺激的です。毎日、これまでに経験したことのない出来事が起こります。あるときは先輩の先生のアドバイスを聞き、またあるときは自分の勘に頼りながら、指導し、学ばせていただ

ているところです。特に、経験が少ない分、生徒や保護者に対しては、誠実に、真摯に向き合うことを大切にしています。

ただ、いくら私が誠実に向き合ったとしても、いくら時間と労力を費やしたとしても、私が願うような変化や成長をすぐに見せてくれる生徒は、そこまで多くありません。「明日は」「次からは」と約束をしても、様々な理由から、守られないことがほとんどです。そんな生徒たちに対して私ができることは、何度裏切られても信じ続けることだと思っています。自分が何か間違ったことをしてしまっても、自分という人間そのものを否定せず、諦めず、信じ続けてくれる存在があるということとは、人間にとつて、とても大きな支えになると思っていますから

です。

そう考えるようになったのは、学生時代の仲間の影響が大きかったと思います。学生時代、私には同じ目標に向かって協力し合える仲間がいました。しかし、困ったことに、全員性格がバラバラで、目標が同じでも、そこに向かうための方法について、幾度も喧嘩を繰り返しました。互いの人格を批判し合うこともありました。そして、飽きもせずそれを繰り返しているうちに、いつしか、何でも遠



2016.06.04 同窓会総会

慮なく言い合える仲間になりました。卒業した今でも、互いに言い合うことはありますが、その根底には、揺るがない「お互いさま」という信頼があります。互いの言動に惑わされることのない、人間としての「芯」のつながりです。私はこのつながりに、とても支えられているのです。

私と仲間とのこのつながりは、いわば偶然的の産物ですが、学級担任としては、生徒一人ひとりと、意図的にこのつながりをもつことが大切だと思っています。学生時代の貴重な経験を糧にし、生徒と家族のように信頼し合える学級を目指し、これからも「信じ続ける先生」でいたいと思っています。

平成二十八年度の懇談会は、十月二十八日弘前大学五十周年記念会館二階岩木ホールにて開催されました。学部からは戸塚学部長以下十名、同窓会からは相馬会長以下十九名の参加がありました。

学部からは以下の説明がありました。(一)「新しい教育学部」については一面の「学部長挨拶」をご覧ください。(二)「教職大学院(教育学研究科教職実践専攻)」について、この大学院は一般的な大学院と同じように試験で八名程度、教育の現場から県教委の推薦により八名程度が入学を許可されることです。そして現場からの院生は修士論文はないが独自の研究課題を基に研究の成果を発表することにより評価されるとのことでした。また、十六名の専任教員のうち、実務家教員が七名配置されるとのことでした。(三)「教育学部の地域連携」については中南教育事務所管内六市町村教委との間で取り交わした連携協定をもとに「中南地域連携協議会」を発足させ、地域協働型教員を養成し、研究会やシンポジウム等を実施する。(四)「就職支援と就職状況」については就職支援室が十月から翌年六月まで教員採用試験対策講座を開講した。青森県を含む他都道府県の試験説明会を開催している。既卒者への対策も行っている。就職状況は青森県の採用枠が減つてき

平成二十八年度 弘前大学教育学部・同窓会懇談会



ている。首都圏も現在がピークである。公務員は厳しい。企業の一割弱が大学院へ進学している。二十八年度の教員採用試験では七十五名が合格したとのことでした。(五)「その他」については特にありませんでした。同窓会からの質問、要望は「教育実習生に対するセクハラ、パワハラの記事を目にするが弘大ではどうか」と「学生に教育に関する有名な書物(例えばエミール等)を読ませてほしい」でそれに対して学部から「セクハラ、パワハラについては把握していない」「機会を見つけて指導したい」との回答がありました。その後スクラムに場所を移し、懇談会が行われました。

平成 27 年度決算

○収入の部 (27. 4. 1～28. 3. 31)			
項 目	27 年度予算	27 年度決算	備 考
会 費	1,280,000	1,431,050	90 人×16,000 円－手数料等
繰 越 金	295,876	295,876	前年度からの繰り越し
繰 入 金	500,000	500,000	青森銀行定期預金から
雑 収 入	500	483,582	利子その他 (寄付、祝儀等)
計	2,076,376	2,710,508	

○支出の部			
項 目	27 年度予算	27 年度決算	備 考
総 会 費	140,000	125,000	総会
評 議 員 会 費	34,000	32,000	旅費を含む
支 部 活 動 費	360,000	360,000	40,000 円×9 支部
通 信 費	30,000	25,689	全学同窓会・会報郵送代
就 職 支 援 経 費	450,000	450,000	就職支援委員会・就職支援室活動援助
教育開発活性化経費	200,000	200,000	新着フェスティバル等実施支援経費 学校サポーター実習活動費
特別対策経費	100,000	100,000	県教委・地教委との連絡協議会 中津地区連携推進協議会経費
社会教育主事講習経費	0	0	平成 27・28 年度は秋田大学
事 務 経 費	50,000	50,000	事務用品・通信費
会 報 印 刷 費	226,800	222,264	あすなろ 37 号印刷費
全学同窓会費	168,000	168,000	240 人×0.7×1,000 円
事 務 局 費	60,000	60,000	会長会議費・事務局活動費等
雑 費	257,576	100,349	事務用品・学部との懇談・卒業祝金等
計	2,076,376	1,893,302	

収入 2,710,508 円から支出 1,893,302 円を引いて残額は 817,206 円
残額 817,206 円は次年度へ繰り越します。

平成 28 年度予算

○収入の部 (28. 4. 1～29. 3. 31)			
項 目	27 年度予算	28 年度予算	備 考
会 費	1,280,000	1,280,000	80 人×16,000 円
繰 越 金	295,876	817,206	前年度からの繰り越し
繰 入 金	500,000	400,000	みちのく銀行定期預金から
雑 収 入	500	500	利息他
計	2,076,376	2,497,706	

○支出の部			
項 目	27 年度予算	28 年度予算	備 考
総 会 費	140,000	140,000	総会
評 議 員 会 費	34,000	34,000	旅費を含む
支 部 活 動 費	360,000	360,000	40,000 円×9 支部
通 信 費	30,000	30,000	
就 職 支 援 経 費	450,000	350,000	就職支援委員会・就職支援室活動援助
教育開発・活性化経費	200,000	150,000	新着フェスティバル等実施支援経費 学校サポーター実習活動費
特別対策経費	100,000	50,000	県教委・地教委との連絡協議会経費 中津地区連携推進協議会経費
社会教育主事講習経費	0	0	平成 27 年・28 年度は秋田大学
事 務 経 費	50,000	50,000	事務用品・通信費
会 報 印 刷 費	226,800	222,264	あすなろ 38 号印刷
全学同窓会費	168,000	119,000	170 人×0.7×1,000 円
事 務 局 費	60,000	65,000	会長会議諸費・事務局活動費
雑 費	257,576	110,000	学部との懇談会・卒業祝金・事務用品費
予 備 費	0	817,442	
計	2,076,376	2,497,706	

平成二十八年度
弘前大学教育学部同窓会
定時総会報告

平成二十八年度の定時総会は平成二十八年度六月四日(土)午後二時から弘前パークホテルにおいて、相馬会長以下二十五名の役員(会長、副会長、監事、各支部長、支部評議員、常任委員)の出席により行われました。相馬会長から長年の課題である同窓会入会者数を七十名の学生減の状況下でいかに増やすかを学部の先生方と一緒に考えていきたい旨の挨拶がありました。その後、議案の審議に入り、会計監査報告、平成二十七年度庶務報告、決算報告、会則、平成二十八年度事業計画案、予算案と審議が進み、最後に二十八・二十九年度役員の選挙が行われた。二十八年度役員を参照してください。その後戸塚学部長、石戸谷事務長をお迎えし懇親会が行われました。

事業計画

1. 同窓会費納入
2. 平成 27 年度会計監査・事務局会議
3. 平成 28 年度総会
4. 同窓会・教育学部懇談会
5. 同窓会報「あすなろ 38 号」発行
6. 弘前大学卒業式・祝賀会
7. その他

特別会計基金報告

平成 27 年 3 月 31 日現在
＜青森銀行関係＞
4,532,136 円 + 908 円(利息) = 4,533,044 円
4,533,044 円 - 500,000 円(支出) = 4,033,044 円
＜みちのく銀行関係＞
4,657,501 円 + 930 円(利息) = 4,658,431 円
(支出の内訳は平成 27 年度予算一般会計へ 500,000 円を繰り入れる)

平成 27 年度 庶務報告

1. 27 年 3 月 同窓会費納入依頼文書発送
2. 27 年 4 月 4 日 平成 26 年度会計監査会、事務局会議
3. 27 年 6 月 6 日 平成 27 年度総会 (25 名出席)
4. 27 年 6 月 26 日 教育学部へ支援金寄贈 (会長、事務局)
5. 27 年 10 月 17 日 教育学部三者面談会へ会長出席、加入訴え
6. 27 年 11 月 27 日 同窓会報「あすなろ 37 号」の原稿依頼
7. 27 年 12 月 10 日 同窓会・教育学部懇談会 (16 名出席)
8. 28 年 1 月 20 日 同窓会報「あすなろ 37 号」印刷発注
9. 28 年 2 月 15 日 同窓会報「あすなろ 37 号」各支部へ発送
10. 28 年 3 月 23 日 弘前大学卒業式・祝賀会 (会長事務局長出席)

お知らせ

◇同窓会新規入会者の現況報告
急激に変化する社会と同様、弘前大学も大きく変化しております。教育学部は入学者数が二百四十名から百七十名と七十名も少なくなりました。最近の同窓会入会者数は三十名前後で推移しており学部を支援していくことが難しくなってきました。そこで同窓会と学部が協力し会員を増やすために入学式後のオリエンテーション、三年次の学生と保護者との三者面談会、卒業祝賀会などの機会を利用し学部が入会を訴える文書等を作成し、会長が学生に直接訴える等をしてきました。先生方にもお願いしてきました。その結果、今年度は八十二名の加入(四十八・二%)でした。さらなる会員獲得のためにも、会員各位の一層のご協力をお願い申し上げます。

平成二十八年度役員

名譽会長	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	監事
戸塚 善三 (学部長)	齋藤 清三 (弘前市)	木村 清之助 (弘前市)	鈴木 正弘 (弘前市)	相馬 正男 (弘前市)	工藤 睦男 (弘前市)	佐々木 誠也 (弘前市)	前田 幸一 (弘前市)	岡元 淳一 (弘前市)	笠島 明 (青森市)	青森 東支部	青森 東支部

1, 支部長 弘前・中郡支部 松田千代治 (弘前市)	2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄 (藤崎町)	3, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也 (鶴田町)	4, つがる・西郡支部 内山 博文 (鯉ヶ沢町)	5, 青森・東郡支部 齋藤 キヨ (青森市)	6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久 (八戸市)	7, 十和田・三沢・上北郡支部 高山 久光 (泊小)	8, むつ・下北郡支部 内山 祐三 (佐井小)	9, 弘大教育学部支部 葛西 敦子 (教育学部)	1, 評議員 弘前・中郡支部 伊藤 學 (弘前市)
6, 八戸・三戸郡支部 高橋 信夫 (八戸市)	7, 三沢・十和田・上北郡支部 廣野 雅美 (野辺地町)	8, むつ・下北郡支部 工藤 魏 (むつ市)	9, 弘大教育学部支部 野呂 徳治 (教育学部)	10, その他の支部 常任委員 葛西 恒雄 (弘前市) 對馬 浩二 (弘前市)	1, 支部長 弘前・中郡支部 松田千代治 (弘前市)	2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄 (藤崎町)	3, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也 (鶴田町)	4, つがる・西郡支部 内山 博文 (鯉ヶ沢町)	5, 青森・東郡支部 齋藤 キヨ (青森市)
7, 十和田・三沢・上北郡支部 梅田 真規 (六戸町)	8, むつ・下北郡支部 川村 正 (三沢市)	9, 弘大教育学部支部 吉崎 聡子 (教育学部)	10, その他の支部 常任委員 葛西 恒雄 (弘前市) 對馬 浩二 (弘前市)	1, 支部長 弘前・中郡支部 松田千代治 (弘前市)	2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄 (藤崎町)	3, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也 (鶴田町)	4, つがる・西郡支部 内山 博文 (鯉ヶ沢町)	5, 青森・東郡支部 齋藤 キヨ (青森市)	6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久 (八戸市)
8, むつ・下北郡支部 馬場せつ子 (三沢市)	9, 弘大教育学部支部 福沢 周治 (十和田市)	10, その他の支部 常任委員 葛西 恒雄 (弘前市) 對馬 浩二 (弘前市)	1, 支部長 弘前・中郡支部 松田千代治 (弘前市)	2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄 (藤崎町)	3, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也 (鶴田町)	4, つがる・西郡支部 内山 博文 (鯉ヶ沢町)	5, 青森・東郡支部 齋藤 キヨ (青森市)	6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久 (八戸市)	7, 十和田・三沢・上北郡支部 高山 久光 (泊小)
9, 弘大教育学部支部 樋口 博昭 (十和田市)	10, その他の支部 常任委員 葛西 恒雄 (弘前市) 對馬 浩二 (弘前市)	1, 支部長 弘前・中郡支部 松田千代治 (弘前市)	2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄 (藤崎町)	3, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也 (鶴田町)	4, つがる・西郡支部 内山 博文 (鯉ヶ沢町)	5, 青森・東郡支部 齋藤 キヨ (青森市)	6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久 (八戸市)	7, 十和田・三沢・上北郡支部 高山 久光 (泊小)	8, むつ・下北郡支部 内山 祐三 (佐井小)
1, 支部長 弘前・中郡支部 松田千代治 (弘前市)	2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄 (藤崎町)	3, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也 (鶴田町)	4, つがる・西郡支部 内山 博文 (鯉ヶ沢町)	5, 青森・東郡支部 齋藤 キヨ (青森市)	6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久 (八戸市)	7, 十和田・三沢・上北郡支部 高山 久光 (泊小)	8, むつ・下北郡支部 内山 祐三 (佐井小)	9, 弘大教育学部支部 葛西 敦子 (教育学部)	1, 評議員 弘前・中郡支部 伊藤 學 (弘前市)